

～フィリオの英語の授業を一部紹介～

(問1) 文法・語法的に正しい英文になるように、～ の選択肢から1つ選べ。
() from a distance, the island looks like a human face.
See To see Seeing Seen



「みんな、おいちゃんといっしょに 語法的に文法問題が解けるように頑張ろう！」

【語法問題の解法】

●正解は④で、①～③は×だ。正解の根拠は？「この英文は主語がthe island「島」だ。Seeingを選んでしまうと、「島」が見ることになってしまうから×だ。「島」は見るほうじゃなくて、見られるほうだから…」と考えてしまった人は、全然ダメ！

よく学校の授業なんかで言われる「人間は～する方で、物は～されるほう」式の考え方ではなぜダメなのかを証明するために、先ほどの問題を少し変えてみよう。

「遠くから見ると、島村はミスターマリックのように見える。」

() from a distance, Mr. Shimamura looks like a Mr. Maric..
See To see Seeing Seen

(正解)

●今度は、主語が人間の「島村」に変わったけれど、正解は変わらず④だ。従来、学校で習ってきた「人間は～するほうで、物は～されるほう」式の考え方ではダメなんだ。じゃあ、この問題は どうやって解くんだろう？実は、この問題は動詞see「見る」の(注1)語法で解く以外にやり方はないんだ。

分詞構文なんて知らなくても、see a movie「映画を見る」という表現は知っているよね。つまり、seeは他動詞なんだから、後ろに名詞の目的語がないと英文中では使えないんだ。()の後はfromで、～はseeの直後に名詞がないから×なんだ。なぜ、のseenになるかをもう少しだけ説明すると、「他動詞」の後ろが名詞の目的語を取っていないように見える場合は次のどちらかの理由からなんだ。

() 受動態の構造が成立している。

() 何らかの理由で目的語が動詞よりも前に出ている。(関係代名詞が典型)

●この問題の場合は()

このように語法は暗記するしかない分野だけど、覚えていればそれだけで問題が解ける利点もある。努力が確実に実る分野でもあるんだ。一度に大量に覚えることはできないから、少しずつ確実に身につけて欲しい。特に動詞の語法は出題頻度が高いから、動詞の意味だけでなく、【自動詞】と【他動詞】の区別、どの文型を取るかまで覚えることが大切。暗記は面倒だけど、フィリオでは他の予備校に比べて、「動詞の語法」を集中的にやる機会が多いんだ。この単元は覚えさえすれば、確実に得点になるんだよ。

この続きが聞きたい人は、是非フィリオの無料体験授業に参加して下さい(^v^)